

授業科目名	貧困に対する支援	単位数	2
担当教員名	石坂 誠	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	医療ソーシャルワーカーの実務経験を持つ教員が、貧困者の支援についてレポート指導を行う。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概の助長を担うべきものである。共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代社会における貧困問題は、日々その深刻さを増しており、単なる貧困の問題から、貧困・社会的排除の問題として、人間の尊厳が問われる事態となっている。こうした貧困・社会的排除にソーシャルワークはどのように対峙していくべきなのか。福祉専門職として必要な低所得者や生活保護に関する制度・政策を含めた公的扶助のあり方について学ぶことは、人間を生産性のみで評価し、自己責任要求が強すぎる日本という国の根本を問うものでもある。</p> <p>本授業では、貧困者支援の制度のあり方と社会福祉専門職としての支援のあり方の概要を理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、低所得者層の生活実態やそれらを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解を深める。また、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係わる他の法制度についても理解を深める。更に、自立支援プログラムの意義とその実際についても理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公的扶助の概念（公的扶助の概念と範囲、公的扶助の意義と役割）</p> <p>第2回：貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境（貧困とは何か、現代の貧困問題や社会的排除、貧困状態にある人の生活実態、貧困にある人を取り巻く社会環境）</p> <p>第3回：貧困の歴史①（貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困間の変遷）</p> <p>第4回：貧困の歴史②（日本の公的扶助の歴史、イギリスの公的扶助の歴史）</p> <p>第5回：生活保護制度の仕組み①（生活保護法の構成、生活保護法の目的と原理・原則）</p> <p>第6回：生活保護制度の仕組み②（保護の種類と内容および方法、保護施設）</p> <p>第7回：生活保護制度の仕組み③（被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟、生活保護の財源・予算）</p> <p>第8回：生活保護制度の仕組み④（最低生活保障水準と生活保護基準）</p> <p>第9回：生活保護制度の仕組み⑤（保護の動向、被保護人員、被保護世帯数、保護の開始・廃止、保護の種類別扶助人員、医療扶助の動向）</p> <p>第10回：低所得者に対する法制度①（生活困窮者自立支援制度）</p> <p>第11回：低所得者に対する法制度②（生活福祉資金貸付制度、低所得者対策、ホームレス対策、その他の低所得者対策）</p> <p>第12回：貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①（貧困に対する支援における公私の役割関係、国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割）</p> <p>第13回：貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②（自立相談支援機関の役割、</p>			

その他の貧困に対する支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割)

第14回：貧困に対する支援の実際①（貧困に対する社会福祉士の役割、支援に必要とされる視点と基本姿勢、貧困に対する支援の実際・生活保護制度における相談援助活動と自立支援）

第15回：貧困に対する支援の実際②（貧困に対する支援の実際・生活困窮者自立支援制度における自立支援）

学修内容：レポート課題：「授業計画」の第1回～第15回までの学習内容について、テキストの第1章から第7章までの自己学習を行う。

定期試験：レポートについて添削指導を受け、合格したうえで科目習得試験を受ける。

教科書

最新・社会福祉士養成講座 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編著『貧困に対する支援』、中央法規、2021年

参考文献

生活保護問題対策会議編『「生活保護法」から「生活保障法」へ』明石書店、2018年

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。